



林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター
平成 28 年 10 月 20 日
No.124

ニホンジカの試行的捕獲開始



① 小型囲いわな



② 性別不明のニホンジカ

10月25日(火)、深浦町の深浦山国有林内(吾妻川下流域)にニホンジカ(以下シカ)捕獲用の小型囲いわな①を設置する予定です。ここでは昨年9月に性別不明のシカが撮影されたため②、設置箇所として選定しました。

この囲いわなは、シカ被害が特に深刻な四国森林管理局で開発されたもので、四国では高い捕獲実績を上げているものです。一般的な囲いわなよりも軽量で設置しやすく、組み立ても道具を使わず簡単に行えるのが特徴です。鉄製の檻の内側に細いワイヤーが通されており、餌におびき寄せられて檻に入ったシカがワイヤーに触れた瞬間に入口のゲートが落ちる仕掛けです。

ゲートを作動させるまでの手順としては、まずはゲートを開けたまま落ちないように固定した状態でわなの周囲にシカの誘引剤を撒き、わなの脇に取り付けたセンサーカメラで哺乳類の行動をよく観察します。そのまま10日間ほどシカの誘引状況を確認した上で、ゲートを作動させる時期を判断し、駆動部の仕掛けをセットした後は毎日欠かさず見回りに行きます。

ここでまず留意すべき点として、シカの誘引に使う飼料が挙げられます。わな設置箇所は民家や水田に近いので、サルやツキノワグマを餌付けするような行為になってはいけません。今



③ユクル

回主に使用するのは、日鐵住金建材株式会社が開発した『ユクル③』という世界初のシカ専用の誘引剤（固形塩）です。昨年10月の販売開始以来多くの自治体でシカ対策に使われており、2016年度グッドデザイン賞にも選ばれています。本製品によるシカの誘引状況がHP上に動画で紹介されていますので、興味のある方はご覧下さい。

(<https://www.ns-kenzai.co.jp/rail-yukrid.html>)

もう一つ気をつけなければならないのが、シカ以外の動物の錯誤捕獲です。檻の天井が無い場合、サルやツキノワグマが誤ってかかっても逃げられるのですが、特に注意が必要なのが特別天然記念物のカモシカです。わなにかかってしまったら速やかにゲートを解放して逃がしますが、狭い檻の中で暴れて怪我をしてしまう事も充分考えられます。センサーカメラで頻繁にカモシカが撮影されれば、ゲートを作動させるわけにはいきません。今後こまめにカメラの画像データをチェックし、専門家の助言を仰ぎながらゲート作動のタイミングを慎重に見計らっていきます。

未だシカの個体密度が低い現状では、シカが捕獲される可能性は相当低いと考えられますが、もし捕獲された場合は速やかに電殺器で殺処分し、現地へ埋設する予定です。その際にDNAや年齢を調べるために耳の一部や歯などのサンプルを採取しますが、具体的な収集データ項目についてはこれから各関係機関とともに検討していきます。(有本)

第1回、第2回の自然再生活動を実施しました



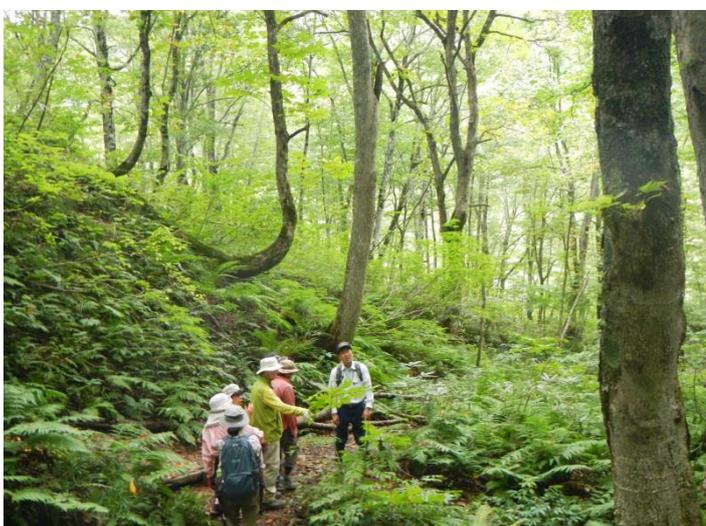
スギの間伐箇所では広葉樹林化を図ります

7月23日(土)と9月17日(土)の2回、当センターの自然再生活動を通称白神ライン(青森県道28号岩崎西目屋弘前線)に隣接する西目屋村暗門の鬼川辺国有林内で実施しました。

この活動は白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を、元々の植生であるブナ等広葉樹林に戻していくため、自然再生活動として広葉樹苗木の採取や植付けなどを実施する



**カミネッコン（段ボール素材のポット）
を使用し植樹しました**



**本事業の目指す姿である天然林の
散策を行いました**

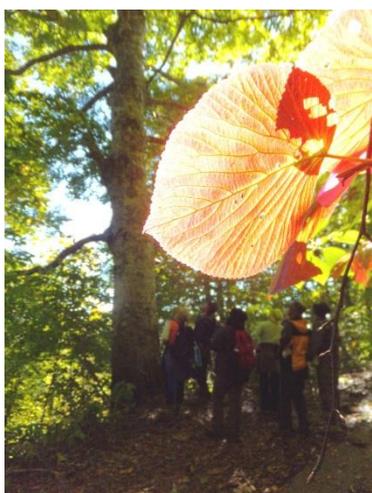
もので、活動終了後は、周辺のブナ林の散策を行っています。森林内での作業を行ったことがない方でも気軽に出来る内容となっており、今年度の参加者は、採取した大きめの稚樹をスコップで自ら穴を掘ってそのまま植え込み、小さめの稚樹は自ら作成したカミネッコンに苗木と土を入れ林内の安定した場所に置くといった作業を実施・体験しました。100年後を見据えたブナ林再生の作業に、参加者からは充実感を感じるコメントを多くいただいたところです。

また、周辺のブナ林散策ですが、7月23日（土）は津軽峠周辺に点在するブナ巨木を巡る遊歩道「ぶな巨木ふれあいの径」と「マザーツリー」、9月17日（土）は暗門溪谷に程近い「世界遺産の径ブナ林散策道コース」において実施し、参加者は解説員（職員）の話聞きながら、大きなブナの迫力を感じるとともに、白神山地の自然環境を体感していました。

こうした活動は今後も公募等により、多くの人の参加を得ながら地道に行っていきたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしています。（吉川）

秋の白神を満喫

森林教室

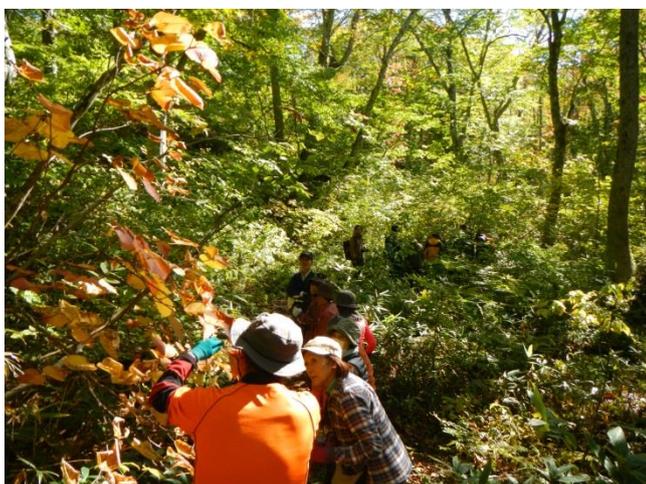


10月15日（土）澄んだ空が天高く続く秋晴れとなったこの日、たくさんの応募者の中から抽選で選ばれた19名に参加いただき、森林教室を開催しました。

今回は『晩秋のブナ林と紅葉の溪谷を望む』と題して、西目屋村のぶな巨木ふれあいの径～津軽峠の散策をし、その後釣瓶落峠の紅葉を楽しむという行程です。

今年は例年に比べ、葉が染まる時期がやや遅れている様子で「最高の染まり具合」とまではいきませんでした。それで

左：赤く染まったオオカメノキ



色づいた葉に手を伸ばす参加者

も様々な種類のキノコや赤く染まったオオカメノキを目にし、着実に訪れている『山の秋』を体感していただきました。ある方はカメラを手に白神の風景を切り取り、またある方はキノコについて理解を深め、思い思いに山との関わりを築いている様子でした。

参加者のひとり「仕事はデスクワークばかりで目が疲れる。けど今日はきれいな自然を見ることができて、疲れがすっと抜けていきます。」と目を輝かせながら話してくれま

した。

今年度の森林教室は今回で最後となりましたが、来年度も引き続き「白神山地と人を結ぶ取組」として開催する予定となっています。来年度も、たくさんの方々のご参加お待ちしております。(久保)

白神山地ビジターセンター 2階

写真展「白神山地の生態系」開催中



写真に目を凝らす来場者

ヒメホテイランが咲く頃に、地際にひっそり開花する陶磁器の様なウスバサイシン、アオモリマンテマが咲く一足先に岩壁を白く染め上げるエゾノイワハタザオ・・・希少種や固有種ばかりが注目されがちな白神山地ですが、普通種でもじっくり観察すれば色彩も姿も魅力的です。今回約120点の写真を展示していますが、特に力を入れたのは、これまであまり紹介されてこなかった若干通好み？の普

通種の花々です。津軽地方のニホンザリガニやサケ科の魚類、3種類のホタルの光等々動物の写真も多数展示していますので、生き物好きの方も楽しんでいただけるかと思

います。
10月31日(月)まで開催していますので、暗門や津軽峠方面へ紅葉狩りに来られる際は、ぜひお立ち寄り下さい。(有本)

〈発行〉林野庁 東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター

〒038-2754 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字米町 25-2 電話:0173(72)2931 FAX:0173(72)2932

